

男女共同参画社会づくりについてのアンケート結果

滋賀県では、平成23年度から平成27年度を期間とする滋賀県男女共同参画計画を策定し、県民や事業者の皆さまと協働し、連携を図りながら男女共同参画社会の実現に向けた取組を進めているところです。そこで、施策の現状を調査するとともに、今後の施策方針の参考とさせていただくことを目的としてアンケートを実施しました。

★調査時期：平成26年11月

★対象者：県政モニター396人

★回答数：290人（回収率73.2%）

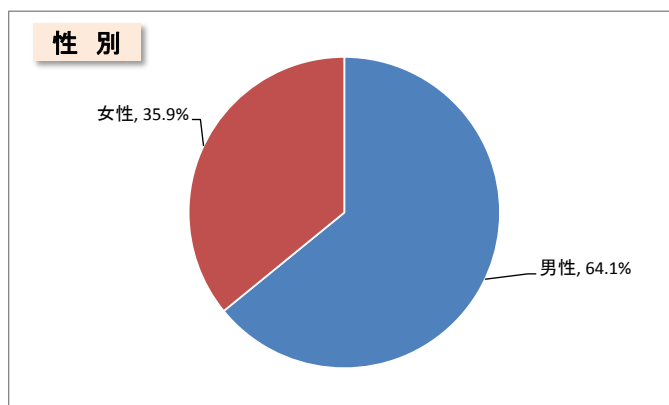
★担当課：男女共同参画課

（※四捨五入により割合の合計が100.0%にならない場合があります。）

【属性】

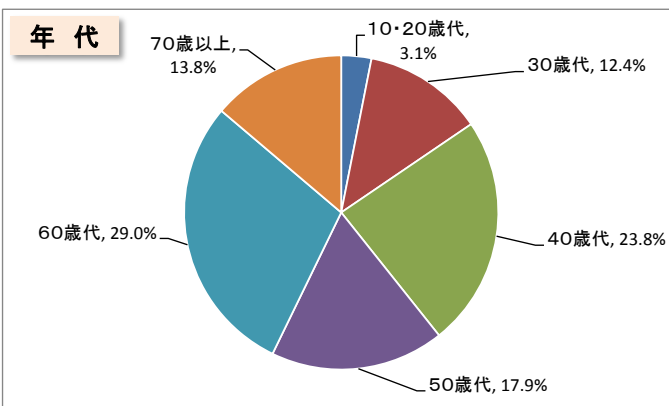
◆性別

項目	人数（人）	割合（%）
男性	186	64.1
女性	104	35.9
合計	290	100.0



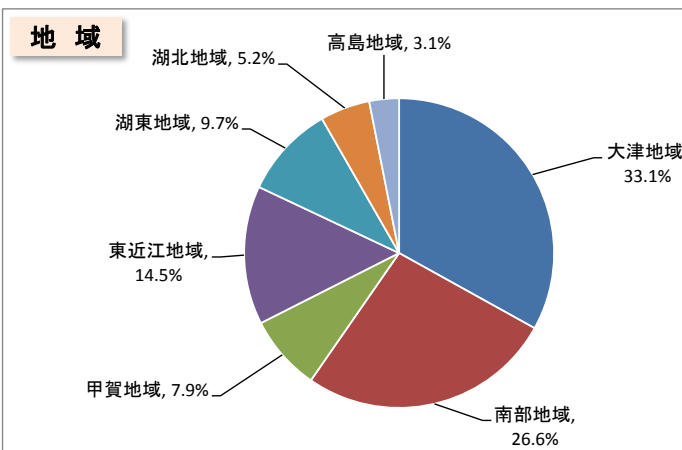
◆年代

項目	人数（人）	割合（%）
10・20歳代	9	3.1
30歳代	36	12.4
40歳代	69	23.8
50歳代	52	17.9
60歳代	84	29.0
70歳以上	40	13.8
合計	290	100.0



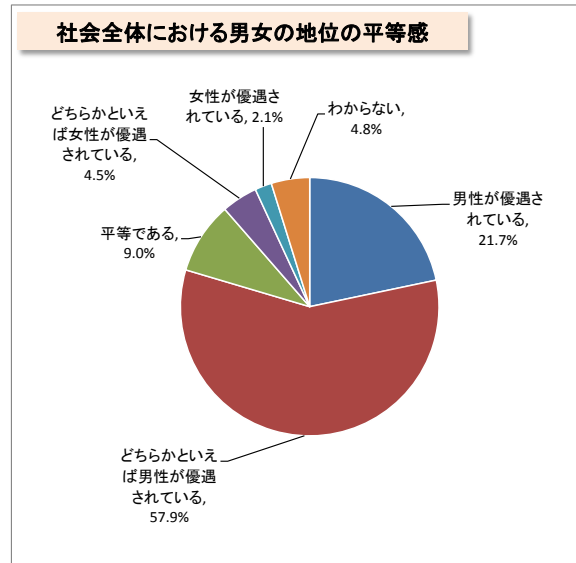
◆地域

項目	人数（人）	割合（%）
大津地域	96	33.1
南部地域	77	26.6
甲賀地域	23	7.9
東近江地域	42	14.5
湖東地域	28	9.7
湖北地域	15	5.2
高島地域	9	3.1
合計	290	100.1



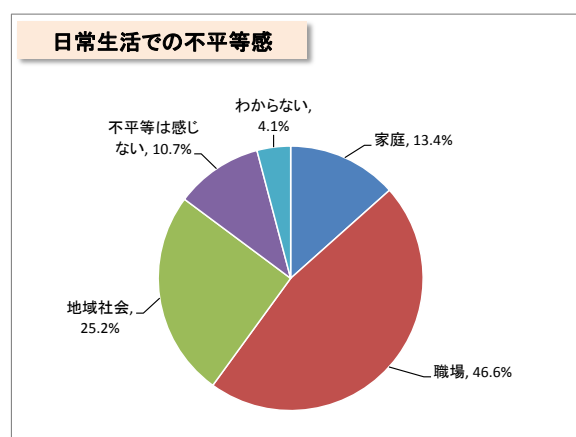
問1 社会全体でみて、男女の地位は平等になっていると思われますか。あなたの考え方に最も近いものの番号を、1つだけ選んでください。(回答チェックは1つだけ。n=290)

項目	人数(人)	割合(%)
男性が優遇されている	63	21.7
どちらかといえば女性が優遇されている	168	57.9
平等である	26	9.0
どちらかといえば女性が優遇されている	13	4.5
女性が優遇されている	6	2.1
わからない	14	4.8
合計	290	100.0



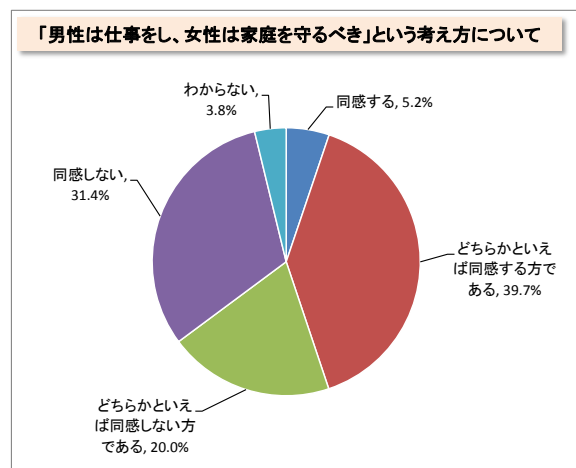
問2 日常生活の中でご自身の実感として、男女の不平等を一番感じる場所はどこですか。番号を1つだけ選んでください。(回答チェックは1つだけ。n=290)

項目	人数(人)	割合(%)
家庭	39	13.4
職場	135	46.6
地域社会	73	25.2
不平等は感じない	31	10.7
わからない	12	4.1
合計	290	100.0



問3 「男性は仕事をし、女性は家庭を守るべき」という考え方がありますが、あなたの考え方に最も近いものの番号を、1つだけ選んでください。(回答チェックは1つだけ。n=290)

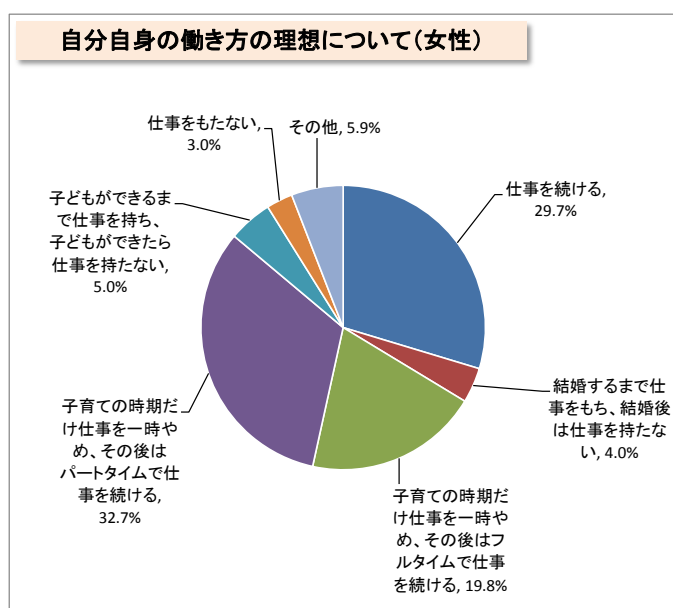
項目	人数(人)	割合(%)
同感する	15	5.2
どちらかといえば同感する方である	115	39.7
どちらかといえば同感しない方である	58	20.0
同感しない	91	31.4
わからない	11	3.8
合計	290	100.1



問4 ※女性の方へおたずねします。

あなた自身の働き方として、理想とする形はどれですか。あてはまるものの番号を1つだけ選んでください。(回答チェックは1つだけ。 n=101)

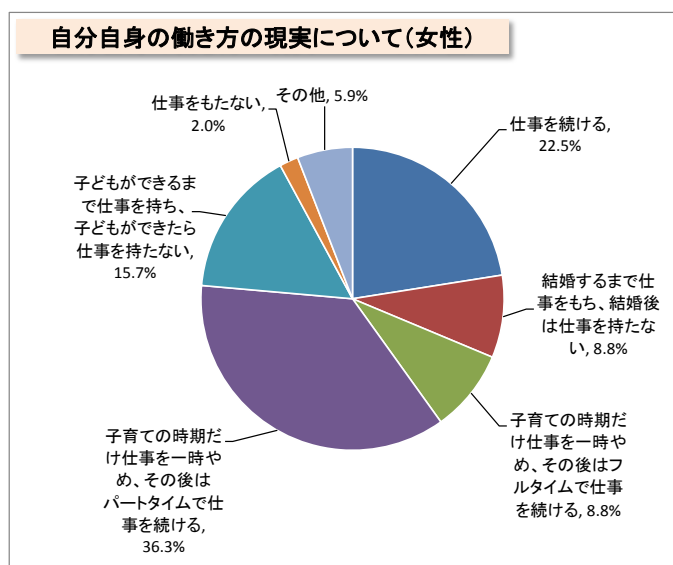
項目	人数(人)	割合(%)
仕事を続ける	30	29.7
結婚するまで仕事をもち、結婚後は仕事を持たない	4	4.0
子育ての時期だけ仕事を一時やめ、その後はフルタイムで仕事を続ける	20	19.8
子育ての時期だけ仕事を一時やめ、その後はパートタイムで仕事を続ける	33	32.7
子どもができるまで仕事をもち、子どもができたから仕事を持たない	5	5.0
仕事をもちたくない	3	3.0
その他	6	5.9
合計	101	100.1



問5 ※女性の方へおたずねします。

あなた自身の働き方の現実で当てはまるもの(当てはまると予想されるもの)はどれですか。あてはまるものの番号を1つだけ選んでください。(回答チェックは1つだけ。 n=102)

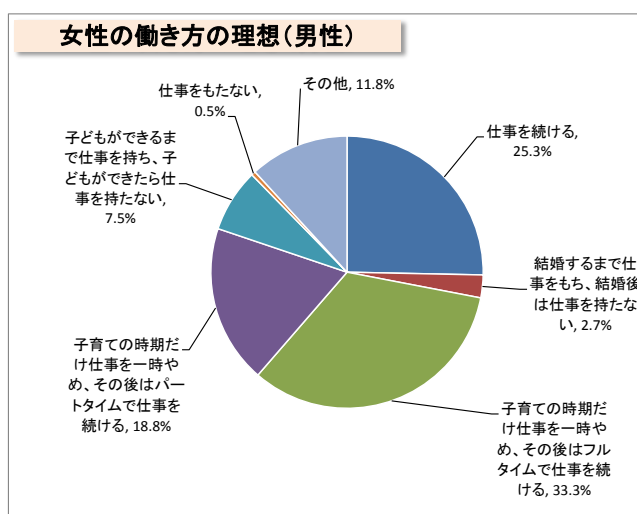
項目	人数(人)	割合(%)
仕事を続ける	23	22.5
結婚するまで仕事をもち、結婚後は仕事を持たない	9	8.8
子育ての時期だけ仕事を一時やめ、その後はフルタイムで仕事を続ける	9	8.8
子育ての時期だけ仕事を一時やめ、その後はパートタイムで仕事を続ける	37	36.3
子どもができるまで仕事をもち、子どもができたから仕事を持たない	16	15.7
仕事をもちたくない	2	2.0
その他	6	5.9
合計	102	100.0



問6 ※男性の方へおたずねします。

あなたが理想とする女性の働き方の形はどれですか。あてはまるものの番号を1つだけ選んでください。(回答チェックは1つだけ。 n=186)

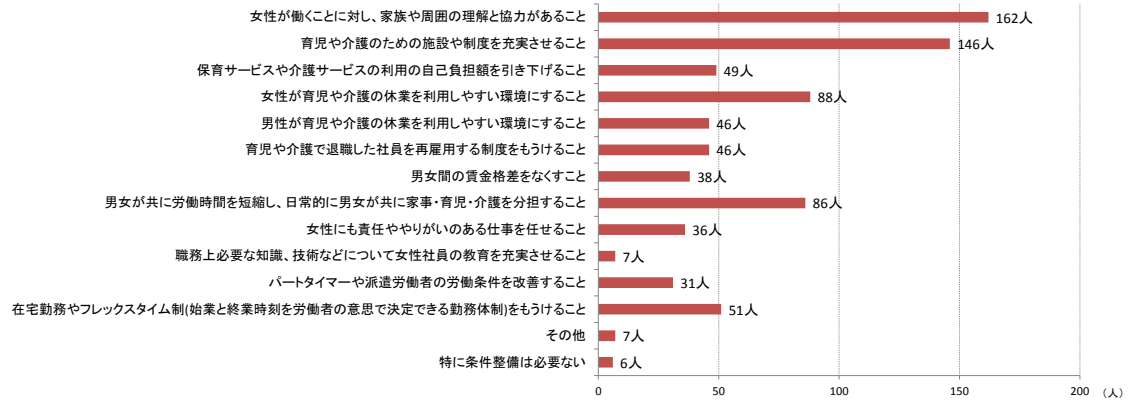
項目	人数(人)	割合(%)
仕事を続ける	47	25.3
結婚するまで仕事をもち、結婚後は仕事を持たない	5	2.7
子育ての時期だけ仕事を一時やめ、その後はフルタイムで仕事を続ける	62	33.3
子育ての時期だけ仕事を一時やめ、その後はパートタイムで仕事を続ける	35	18.8
子どもができるまで仕事をもち、子どもができたなら仕事を持たない	14	7.5
仕事をもちたくない	1	0.5
その他	22	11.8
合計	186	99.9



問7 あなたは女性が仕事を続けているためには、どのようなことが必要だと思いますか。必要だと思うものの番号を3つまで選んでください。(回答チェックは3つまで。 n=290)

項目	人数(人)	割合(%)
女性が働くことに対し、家族や周囲の理解と協力があること	162	55.9
育児や介護のための施設や制度を充実させること	146	50.3
保育サービスや介護サービスの利用の自己負担額を引き下げること	49	16.9
女性が育児や介護の休業を利用しやすい環境にすること	88	30.3
男性が育児や介護の休業を利用しやすい環境にすること	46	15.9
育児や介護で退職した社員を再雇用する制度をもうけること	46	15.9
男女間の賃金格差をなくすこと	38	13.1
男女が共に労働時間を短縮し、日常的に男女が共に家事・育児・介護を分担すること	86	29.7
女性にも責任ややりがいのある仕事を任せること	36	12.4
職務上必要な知識、技術などについて女性社員の教育を充実させること	7	2.4
パートタイマーや派遣労働者の労働条件を改善すること	31	10.7
在宅勤務やフレックスタイム制(始業と終業時刻を労働者の意思で決定できる勤務体制)をもうけること	51	17.6
その他	7	2.4
特に条件整備は必要ない	6	2.1

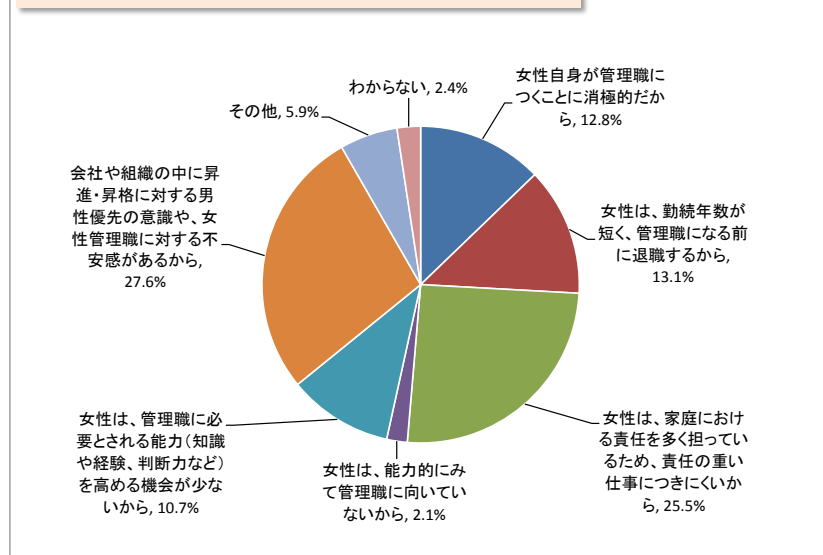
女性が仕事を続けるために必要なこと



問8 現状では、管理職（意思決定を行う管理的部門や指導的地位のことを言います。）につく女性が少ない状況にあります。その最も大きな理由としてどのようなものがあると思われますか。あなたの考えに最も近いものの番号を、1つだけ選んでください。（回答チェックは1つだけ。 n=290）

項目	人数(人)	割合(%)
女性自身が管理職につくことに消極的だから	37	12.8
女性は、勤続年数が短く、管理職になる前に退職するから	38	13.1
女性は、家庭における責任を多く担っているため、責任の重い仕事につきにくいから	74	25.5
女性は、能力的にみて管理職に向いていないから	6	2.1
女性は、管理職に必要とされる能力(知識や経験、判断力など)を高める機会が少ないから	31	10.7
会社や組織の中に昇進・昇格に対する男性優先の意識や、女性管理職に対する不安感があるから	80	27.6
その他	17	5.9
わからない	7	2.4
合計	290	100.1

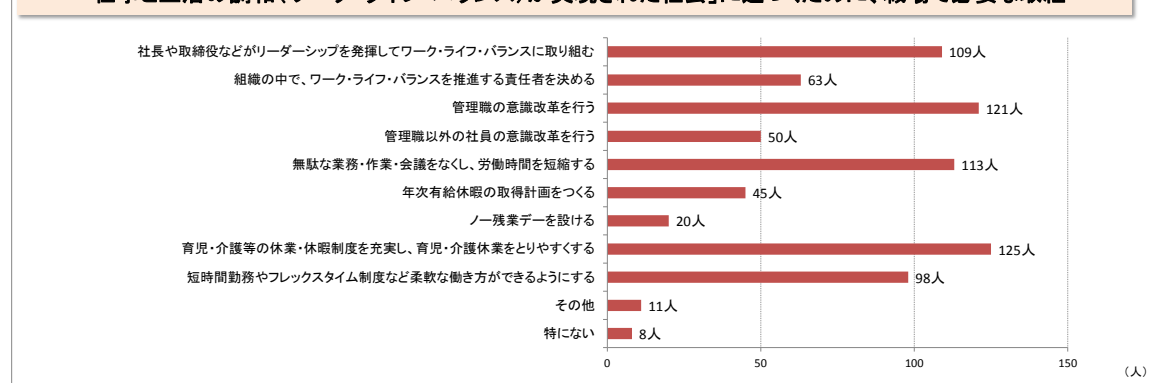
管理職につく女性が少ない最も大きな理由



問9 「仕事と生活の調和（ワーク・ライフ・バランス）が実現された社会」に近づくために、職場においてどのような取組が必要だと思いますか。あなたの考えに近いものを、3つまで選んでください。（回答チェックは3つまで。 n=290）

項目	人数(人)	割合(%)
社長や取締役などがリーダーシップを発揮してワーク・ライフ・バランスに取り組む	109	37.6
組織の中で、ワーク・ライフ・バランスを推進する責任者を定める	63	21.7
管理職の意識改革を行う	121	41.7
管理職以外の社員の意識改革を行う	50	17.2
無駄な業務・作業・会議をなくし、労働時間を短縮する	113	39.0
年次有給休暇の取得計画をつくる	45	15.5
ノー残業デーを設ける	20	6.9
育児・介護等の休業・休暇制度を充実し、育児・介護休業をとりやすくする	125	43.1
短時間勤務やフレックスタイム制度など柔軟な働き方ができるようにする	98	33.8
その他	11	3.8
特になし	8	2.8

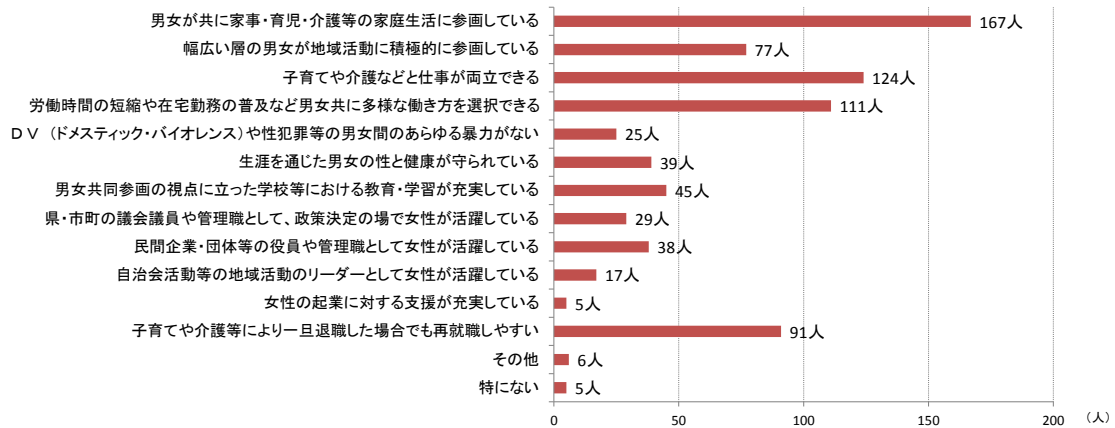
「仕事と生活の調和（ワーク・ライフ・バランス）が実現された社会」に近づくために、職場に必要な取組



問10 あなたが望む男女共同参画社会の姿とは、どのようなものですか。特にあてはまるものの番号を3つまで選んでください。（回答チェックは3つまで。 n=290）

項目	人数(人)	割合(%)
男女が共に家事・育児・介護等の家庭生活に参画している	167	57.6
幅広い層の男女が地域活動に積極的に参画している	77	26.6
子育てや介護などと仕事が両立できる	124	42.8
労働時間の短縮や在宅勤務の普及など男女共に多様な働き方を選択できる	111	38.3
DV(ドメスティック・バイオレンス)や性犯罪等の男女間のあらゆる暴力がない	25	8.6
生涯を通じた男女の性と健康が守られている	39	13.4
男女共同参画の視点に立った学校等における教育・学習が充実している	45	15.5
県・市町の議会議員や管理職として、政策決定の場で女性が活躍している	29	10.0
民間企業・団体等の役員や管理職として女性が活躍している	38	13.1
自治会活動等の地域活動のリーダーとして女性が活躍している	17	5.9
女性の起業に対する支援が充実している	5	1.7
子育てや介護等により一旦退職した場合でも再就職しやすい	91	31.4
その他	6	2.1
特になし	5	1.7

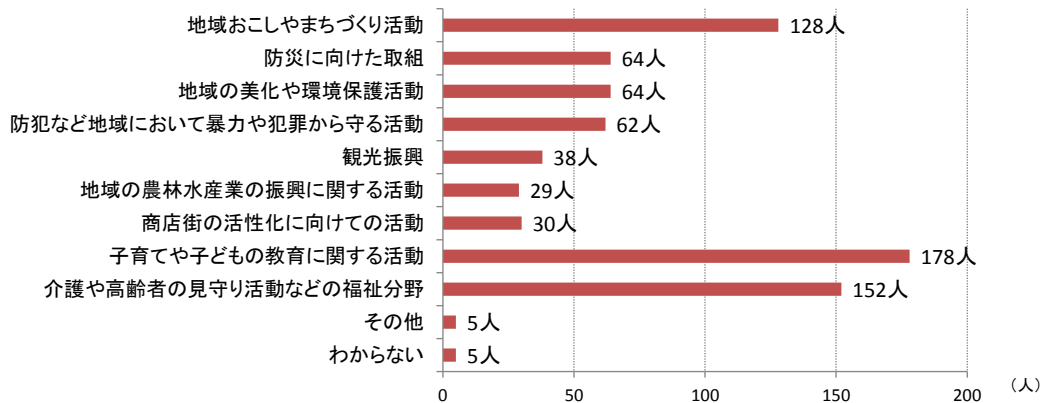
理想の男女共同参画社会の姿



問 1 1 地域における活動分野の中で、これからますます男女共同参画の視点が必要となるとと思われる活動は、どのようなことだと思われますか。特にあてはまるものの番号を3つまで選んでください。（回答チェックは3つまで。 n=290）

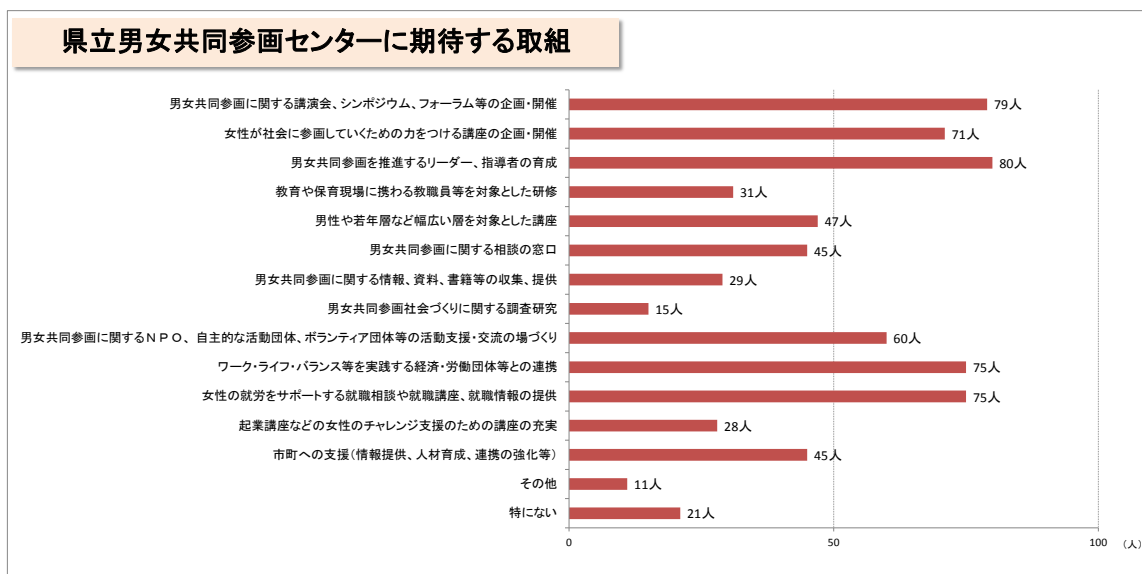
項目	人数(人)	割合(%)
地域おこしやまちづくり活動	128	44.1
防災に向けた取組	64	22.1
地域の美化や環境保護活動	64	22.1
防犯など地域において暴力や犯罪から守る活動	62	21.4
観光振興	38	13.1
地域の農林水産業の振興に関する活動	29	10.0
商店街の活性化に向けての活動	30	10.3
子育てや子どもの教育に関する活動	178	61.4
介護や高齢者の見守り活動などの福祉分野	152	52.4
その他	5	1.7
わからない	5	1.7

男女共同参画の視点が必要となる地域での取組



問12 男女共同参画の推進を図るための拠点施設として県立男女共同参画センター（G-NET（じーねっと）しが）がありますが、あなたは今後、県立男女共同参画センターにどのような取組を期待されますか。特にあてはまるものの番号を3つまで選んでください。（回答チェックは3つまで。 n=290）

項目	人数(人)	割合(%)
男女共同参画に関する講演会、シンポジウム、フォーラム等の企画・開催	79	27.2
女性が社会に参画していくための力をつける講座の企画・開催	71	24.5
男女共同参画を推進するリーダー、指導者の育成	80	27.6
教育や保育現場に携わる教職員等を対象とした研修	31	10.7
男性や若年層など幅広い層を対象とした講座	47	16.2
男女共同参画に関する相談の窓口	45	15.5
男女共同参画に関する情報、資料、書籍等の収集、提供	29	10.0
男女共同参画社会づくりに関する調査研究	15	5.2
男女共同参画に関するNPO、自主的な活動団体、ボランティア団体等の活動支援・交流の場づくり	60	20.7
ワーク・ライフ・バランス等を実践する経済・労働団体等との連携	75	25.9
女性の就労をサポートする就職相談や就職講座、就職情報の提供	75	25.9
起業講座などの女性のチャレンジ支援のための講座の充実	28	9.7
市町への支援(情報提供、人材育成、連携の強化等)	45	15.5
その他	11	3.8
特にない	21	7.2



問13 男女の性別にかかわらず、男性も女性もそれぞれの個性や能力が尊重され、と共に輝いて生きることができる男女共同参画社会を実現していくための、あなたのご意見・ご要望がありましたら、ご自由にお書きください。(抜粋)

- 「無駄な業務・作業・会議をなくし、労働時間を短縮する」ことでできる余裕をどうするかが大事と考える。その結果人員を削減する風潮が社会にあるが、その結果ワークシェアリングを促し個人個人の余裕を増やすことで仕事でも家庭でも地域でも個人個人が活動しやすくなると思う。
- 小さい時から身につけてきた常識を変えることは難しいので、子供の時から、男女共同参画社会について学ぶことが大切ではないでしょうか？最近、女性がいろいろな職に就く半面、女性だけだった保育士や看護師のなどに男性が増えてきているのもいいことだと思います。
- 男女共同参画社会をもっと拡大して行くことに賛同する。人口減少が進み、有能な女性の活躍の場をもっと拡大していかないといけない。その推進に行政の力量が問われる。
- 女性の積極的な参加を実現していくためには、参加する側と受け入れる側双方の意識改革が必要と考える。受け入れる側としては、組織もっと言えばトップの理解が必要である。仕事の現場において、管理者も生産性を求められる。育児や介護などで職員が他者と同様の働きが制限される場合、業績に影響がでてきてしまい、そのことを理由にしても上層部には理解が得られないのが現状である。個人的には実情が理解できるが、組織の中では、そのような女性がいることが影響していると考えてしまうのが率直な感想である。一方で、働く女性側にしてもある程度の努力もしてもらいたいのも事実である。仕事に制約をきたす状況にある場合、それを理由にして、個人としての努力を十分に果たさず、その現状に甘んじているとみられる場合も少なくない。男性と同様の地位をきずいていくためには、同様の責任を果たしていく決意で臨んでもらいたいのも事実である。
- 男女平等は望ましいが、一般に女性は消極的である。低学年からの教育で意識改革を図るべき。女性に適した職域を考慮した人事が望ましい。女性の特質を生かすべきである。賃金格差は大きい。性差を超えた評価基準の見直しも必要であり、企業に対する教育も必要。実態を把握し改善すべきである。
- 少子化の時代になっても、経済活動を維持し続けるためには女性の力が必要であろうと思われる。この点では日本が大変に遅れているように思う。共に働ける環境づくりを目指してほしい。
- 働いている女性が全て能力があるわけではないので、単に女性の管理職を増やせばいいなどという問題ではないと思う。全ての女性が外で働きたいと思っているわけではないので、「男性は仕事、女性は家事」というひとくりにするのではなく、「家にいたい(家事をしたい)女性」「仕事をしたい男性」の意思を尊重すべき。そのうえで、それをサポートする制度を整えるのがよいと思う。

- 男女ともに、旧来からのしきたりや仕組みにとらわれた思考から抜け出さないといけない。現状は、いろんな場面で役割分担が固定観念化してしまっているが、それに対して異論提起できるような空気がない。県には各種組織の指導層に対する意識改革を迫るような取り組みを期待したい。
- 家事、介護、子育て、教育など、家庭生活に対しての男性の固定観念（男は外で仕事をしている経済の担い手であり、女は家庭内を担って当然）が足かせ手かせになって、女性の能力を閉じ込めてきました。また女性側も、自己認識の思いが薄く、現状に甘んじることに馴れ、他力本願の面が多く見られます。男女ともに、まだまだ未熟な現実であり、双方の歩み寄れる機会を、地域で作り合いたいと考えます。
- 男性は元々社会に出て働くことを前提に育っているところがあり、生涯働くことが当たり前のようによく考えてる人が多いです。一方で、女性は日本においては、子育てを含めて家庭を守る役割を期待されることが多く、どうしても経済活動の中心は男性、家庭は女性を前提として社会のバランスが成り立っているように思います。徐々にですが、政府をはじめとして、女性をもっと社会の中心に押し出す方向に向いてきています。しかし、率先して働きたいと考える女性ばかりではないことも考慮する必要があります。私の周りでも、家計が苦しいから仕方なく働く必要があるが、働き口がなかなか見つからないという方が少なからずおられます。男女共同参画社会という、大きな構想もあるでしょうが、「男性も女性もそれぞれの個性や能力が尊重され、共に輝いて生きることができる」ように、各個人に対して選択の幅が広がるように施策を打つのが肝要かと思います。
- 性別によっての能力差というより、個性による才能の差といった方がじっくり来る感じがします。自分の個性や才能にはなかなか気づきにくいものですが、まずは自分を知ることから全てがはじまる気がします。その中で自分の持味を活かす選択肢が社会の中にたくさん用意されていれば理想的ですし、多様な選択肢が用意され、その環境が整えられた社会であることが、個人の才能を最大に活かしつつ、社会も自分も発展しあい、互いが豊かになっていける道のような気がします。
- 一般的に（本アンケートも）仕事とは家庭外で働き所得を得ること捉え、家庭における家事労働（炊事・洗濯・育児・子育て・介護など）を仕事とみていない。しかし、家事労働を外部労働（お手伝いさん、パートなど）に依存した場合、相応の対価を支払う必要があり、家事労働も立派な仕事であることが分る。だが、家事労働について男性ではなく専ら女性に頼ることを当然視している社会一般の認識や制度に問題があり、男女が平等に家事労働（家庭内の仕事）を適切に分担し、特に女性がその能力や特性をより多く発揮するためには家事労働だけでなく社会での仕事（生産活動）にもっと参加できるようにする必要がある。それは少子高齢化で生産人口が急速に減少し行く現在の日本ではきわめて喫緊の課題である。その解決のためには男女ともに意識改革が必要であるだけでなく、女性差別につながる社会的制度や慣行を積極的に改めていくことが不可欠である。
- 男女共同参画実施企業等の成功事例等をもっと紹介し県全体での取り組み強化を継続していく必要があると思います。